

27名の6年生が新しいステージへと旅立っていった。私が最も楽しみにしているのは、卒業証書を渡す瞬間。子どもと正対し、眼を合わせる。小さく声をかけながら心を合わせられたような気持になる▼子どもはそれどころではないかもしれない。緊張で胸が張り裂けそうな子。きりりと口を閉じ、真摯な表情を浮かべる子。笑顔を絶やさぬ子。どんな気持ちで証書を受け取ってくれたのだろう▼眼は嘘をつかないというのを聞いたことがある。過去の卒業生、今年の卒業生、すべての卒業生に共通するのは、キラキラとした眼だ。瞳はダイヤモンドという歌があったが、まさにそうだ▼子どもたちの答辞の中に、「仲間と一緒に」「仲間を大切に」そんなフレーズがあった。頭でっかちな飾り言葉でなく、子どもたちの体をくぐって体験した言葉だ。AIには答辞は作れない▼卒業式の朝、担任教師が、職員に向かってこんなことを言った「先生方、みなさんのおかげで卒業式を迎えることができました。今日、わたしは、6番目の担任として、みなさんを代表して子どもの名前を呼ばせていただきます」▼阿下喜小学校の教育に対する姿勢、子どもへの愛情を一言で言い表した。在校生を含め、一人ひとりが輝いた卒業式。その卒業式を創り出した子どもと教職員を誇りに思う。日常を大切にした6年間のプロセスが、子どもの目の輝きを導く。卒業おめでとう。

080319-47 卒業式を終えて